



2021年11月12日

各位

会社名 ニューラルポケット株式会社  
代表者名 代表取締役社長 重松 路威  
(コード番号：4056 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 CFO 種 良典  
(TEL 03-5157-2345)

### 連結業績予想の開示及び個別業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年10月22日付の取締役会において、株式会社フォーカスチャネルの株式（以下「フォーカスチャネル」といいます）を取得することを決定し、2021年11月1日に同社を完全子会社化いたしました。それに伴い、2021年12月期の連結業績予想を開示することといたしました。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年12月期通期決算発表時（2021年2月12日）に開示した2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）の個別業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 当期の連結業績予想

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
当期予想	(百万円) 1,006	(百万円) 16	(百万円) 11	(百万円) 9	(円銭) 0.61

#### 2. 当期の個別業績予想数値の修正（2021年1月1日～2021年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	(百万円) 1,256	(百万円) 380	(百万円) 370	(百万円) 280	(円銭) 19.98
今回修正予想(B)	982	8	3	1	0.04
増減額(B-A)	△274	△372	△367	△279	△19.94
増減率(%)	△21.8	△97.9	△99.2	△99.8	△99.8
(参考)前期実績 (2020年12月期)	762	170	148	147	10.85

#### 3. 個別業績予想修正の理由

当社は、2022年を飛躍的成長実現の最初の年と位置づけ、サイネージ広告サービスへの積極的な投資による事業拡大と、スマートシティ事業の海外展開を視野に全国展開を目指しております。これまで売上の多くを占めていた個別案件によるフィーベースでのサービス提供から脱却し、継続的なユニットあたり売上が実現できるユニットベースでのサービス提供への移行を進めるため、財務基盤と研究開発・サービス提供体制の強化を進める方針を打ち出してまいりました。

そうした取り組みを進める中、現状から早期に脱却し、飛躍的成長フェーズに移行するためには、より思い切った事業モデルの転換を行う必要があるという認識に至り、必要な経営リソースを確保するため、フィーベースのプロジェクトの一部の受注を見送ることを決定いたしました。

また本年度においては、事業モデルの転換を進めながら、ユニット販売に耐えうる、AI ソフトウェアとその安定稼働を実現する体制構築のため、研究開発や保守・運用サービスに必要な投資を積極的に行ってまいりました。品質開発拠点のAI テストフィールドの開設、機器設置などのオペレーション業務及び要件定義を担うニューラルエンジニアリング株式会社の設立など事業計画を上回る投資を実施し、事業モデルの転換を支える基盤を構築いたしました。

引き続き、事業モデル転換へ経営リソースを集中投下し、研究開発体制と営業体制の強化を進めるにあたり、通期業績予想の修正を行うことを決定いたしました。

修正後においても、前年同期比で、売上高は増加しており、当社のキャッシュ創出力を計る粗利率は80%水準で、高い収益性を維持しております。事業モデル転換による2022年以降の売上高の増加についても引き続き高い粗利率を維持し、グループ全体の収益性のさらなる強化に貢献するものと考えております。

2021年11月12日に開示いたしました「2021年12月期第3四半期決算説明資料」もご参照ください。

(注) 上記の予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。